

リンパ節転移を認めた胆嚢未分化癌の一例

◎橋本 亜紀子¹⁾、折田 恵¹⁾、萩原 愛弓¹⁾、小原 勇貴¹⁾、池田 和人¹⁾、吉田 侑生¹⁾、藤岡 眞理¹⁾、田近 洋介¹⁾
国立大学法人 富山大学附属病院¹⁾

【はじめに】胆嚢未分化癌 (undifferentiated carcinoma of the gallbladder) は、原発性胆嚢癌の中でもまれな疾患で予後不良である。今回、リンパ節転移を認めた胆嚢未分化癌の一例を経験したので、リンパ節 (EUS-FNA) での細胞像について報告する。

【症例】60歳代 女性。CTで胆嚢体部に23mm大の腫瘤を指摘、PETではリンパ節に集積を認めたため、#12リンパ節のEUS-FNAが施行された。のちに胆嚢切除術が施行された。

【#12リンパ節 (EUS-FNA) の細胞診所見】節由来のリンパ球を背景に、結合性の低下と不規則重積性を伴う大小の集塊状で異型細胞がみられた。異型細胞は、類円形～紡錘形、核腫大、核の大小不同、核形不整、クロマチン顆粒状、核縁肥厚、小型核小体を認めた。以上より、悪性を考え、低分化癌や肉腫の転移を鑑別として考えた。

【胆嚢切除検体の病理所見】胆嚢体部～底部に20mm大の腫瘤を認め、多辺形～紡錘形の異型の強い細胞が充実性に増殖していた。免疫組織学的には、AE1/AE3

(focal+)、Vimentin (diffuse+)、Chromogranin A (-)、Synaptophysin (-)、Desmin (-)、SMA (-)を示した。以上より、未分化癌と診断され、#12cと#13リンパ節に転移を認めた。

【考察】本症例では、リンパ節のEUS-FNAが施行され、結合性の低下した集塊や紡錘形細胞から低分化な細胞像が得られた。低分化癌や肉腫の転移を鑑別として考えたが、未分化癌であった。これらの細胞形態学的な鑑別は困難であり、免疫染色の併用を考慮する必要があると考えた。胆嚢病変に対するEUS-FNAは、胆汁の漏出による胆汁性腹膜炎及び播種リスクがあり、安全面から胆嚢内腔を介さずに穿刺できる症例に限定される。胆嚢病変症例で、リンパ節に転移が疑われる場合、リンパ節のEUS-FNAを併用することは、確定診断への一助につながると考える。

【まとめ】胆嚢未分化癌の一例を経験した。細胞所見や免疫組織学的所見の更なる症例の蓄積・検討を進めていきたい。連絡先：076-434-7745